

月刊

GPP



Vol.59

令和2年9月号

株式会社  
グロースパートナーズ

## ○ “生コン・残コンソリューション技術研究会”始動 ○

猛暑というか、酷暑と言うか、蒸し蒸しと高温度の毎日で、ユニクロTシャツ以外は暫く着れそうにない日が続いている。

さて、そんな暑さの真っ最中の8月19日に、予定通り  
“生コン・残コンソリューション技術研究会”

のキックオフ大会が開催された。見込みを大幅に上回って、来場とZOOM合計で120名にご参加頂いたこと、この場をお借りして御礼申し上げたい。我々は事務局として全体のお手伝いをさせて頂いたが、反省点が幾つもあり、次回の会合は万全の体制で臨みたいと考えている。

そもそも前段として、名前に“残コン”という負のイメージの言葉を入れるのは大いに躊躇したし、私自身は否定的だった。何人かに相談させて頂いたがその中で「どうせやるなら、突き抜けた方が気持ち良い」との言葉を頂き、そして何より応じて頂いた野口先生に感謝申し上げたい。今となっては“残コン”の文字が輝いて見えている。

私自身は生コンクリート業界に精通しているわけではなく、むしろ知らないことばかり。兎に角、全てがJISで規定されていることに驚かされているぐらいだ。発注するにはFAX以外の手段がない。世紀が代わり、年号が2回代わってもFAXなのだ。因みに、マレーシア時代に、感熱紙FAXのカッターユニットを製造していたが、私の工場が世界シェア90%を誇っていたので、FAXには皆様より何百倍も愛着がある。FAXに罪がある訳ではないので、勘違いなさらぬように。

日本の社会において、変化を嫌がる人は多い。

「何かあったら誰が責任取るんだ」星人が降臨して来るからだ。

危険にさらす為に変化を遂げようとしているのではない。

勿論、例えば「安全を確保する」「間違わないようにする」「効率を上げる」

ことは、至極当たり前の変えてはならない姿勢だ。

ただ、それを成し遂げる手段は、時の流れと共に変化していく。

言ってみれば、歩いて目的地に向かった人が、馬に乗り、自転車に乗り、自動車に乗り、そして飛行機に乗るようになったことと同じだ。

9月末までに一般社団法人として登記完了予定である。

JISを含めた規格化・標準化を進める団体であるが、大義として生コンクリートにおけるSDGsの実現を活動領域としている。

風通しのあまり良くない業界に、一石を投じる存在になり得るかも知れない。

今後の活躍を、是非、期待して頂きたい。

藤井 成厚

発行：株式会社グロースパートナーズ

# 生コンは資源で、不要になった生コンは、廃棄物？

先月実施された「生コン・残コンソリューション技術研究会」のキックオフミーティングでもセルドローンの技術を紹介させていただきましたが、現場で発生する余剰分の資源を循環(再利用)させることは当たり前で、現場でも利活用できるように規格などのルールを設けてもらえるのは良いことだと思います。

個人的な見解ですが、建設現場では余った生コンクリートを利活用したいのに、法的な問題？で一度捨てないといけないなんておかしい。

少し余った生コンをそのまま土の中に埋めていってしまうのは違法行為に当たると思うが、必要な形にして有効活用することは素晴らしいことだと思う。悪事を働かせようとする人を取り締まる反面、善事をしようとする人を窮屈にしてしまうのは良くないはずだ。公園に古タイヤで作られた遊具を見たことがある。これは違法行為に当たらない、施工会社は、現場で余った生コンを砕石状にして、利用することが不法投棄と疑われると困るので処分する...おかしい。早く「残コン」に規格やルールが出来て再利用ができるようになることを願っている。セルドロンは、すでに国交省のNETISに登録されており、現場で採用されるケースが増えてきているが、改良物は、最終的に産業廃棄物として処分していることが多い。JIS製品である生コンクリートを有効活用することができるにも関わらず、捨ててしまうことはもったいない。その現場内で有効活用することが、当たり前になることを期待したい。



タイヤ公園



セルドロンで改質した残コン

## セルドロン採用情報

今月も大手ゼネコン様から残コン処理用にセルドローンのオーダーをいただきました。現場のモルタル処理や残コン処理に活用されました。お客様の声も非常にうれしいもので、打設回数がまだまだあるのでリピートいただけることでしたので、現地へ訪問した際には写真をアップさせていただきます。